

平成 30 年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業



木刀による剣道基本技稽古法の検討

平成 30 年度中学校武道授業（剣道）指導法研究事業（主催＝日本武道館・全日本剣道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）は 7 月 6～8 日、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで実施された。研究者 10 名が集まり、全国剣道指導者研修会の内容検討を中心に行われた。

□1 日目（7 月 6 日）

開講式では、はじめに網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が主催者を代表して「今年度も 5 ブロックで全国剣道指導者研修会が行われます。成功裏に終わるよう、意思の疎通を図るとともに、先生方の指導力、剣道を通しての教育力に目を向けながら、指導内容をまとめていきたいと思います。中学校武道必修化は、剣道の底辺拡大に大きな力になると考えます。実のある研究事業にしていきたいと思います」と挨拶をした。

次に、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶に立ち、「武道必修化は現場の先生方がどのような指導をされて、子供た

ちをよりよくしていくか、教育実践が問われます。資質の向上とともに、先生方の指導力の向上について研究協議を深め、剣道実践校でその成果が発揮できるようにしていただきたい。剣道を専門としない先生に剣道の素晴らしさが伝えられて、授業の成果が上がるような研究と内容を積み上げていただくことを期待しています」と述べた。

開講式の後、百鬼史訓研究者より剣道授業の現状についての報告があった。全日本剣道連盟では、授業協力者養成講習会や公開授業を行っている。実態調査の結果、授業協力者を活用することで、保健体育科教員の負担軽減だけでなく、授業の安全性や学習効果、教員の資質の向上が多く見られ、教員の評価や生徒の満足度も高いことがわかった。また、授業協力者と教員がしっかりと打ち合わせや役割分担の確認が必要不可欠であり、連携を密に取ることが大事である。課題として、現場で授業協力者の活用が少ないため、教育関係者へ推奨・啓発が必要であると説明があった。

次に、柴田一浩研究者より、新学習指導要領についての講義があった。新学習指導要領では技の精選を行い、中学1・2年生の技能から引き面、小手抜き面がなくなった。教員は授業で比較的容易な技を指導することになるため、その中で生徒が考えたり、自然に生まれた技を大事にする必要がある。また、グループ活動の話し合いも座った状態ではなく、立った状態で体を動かすことが大事である、との報告があった。

その後、全日本剣道連盟が本年2月に発行した『剣道授業の展開（ダイジェスト版第3版）』の執筆に携わった軽米満世研究者より、本書の作成・活用についての説明があり、1日目を終えた。

□2日目（7月7日）

全国研修会で講師の共通理解を図ることを目的に、講師用資料「剣道指導のガイドライン」作りを行った。主に講師を務めてきた実技や講義の担当者がそれぞれ指導案を作成。新学習指導要領の改訂や研修会参加者の感想なども踏まえて各研究者が検討し、予定の時間を大幅に延長して行った。全てのコマがそろい、佐藤義則研究者の進行のもと、留意点を中心に、時間配分や語句の統一など、細かい部分まで再確認・検討を行った。剣道用語を少なくし、初心者の先生がわかりやすい研修会にするために、研究者の知恵を結集したガイドラインが作成され、全国研修会の準備が整った。

□3日目（7月8日）

はじめに、岩脇司研究者より、評価についての講義が行われた。新学習指導要領に移行する平成33年度までは現行の4観点（関心・意欲・態度、思考・判断、運動の技能、知識）で評価を行う。指導と評価の

一体化について、教員は指導したことを評価するだけでなく、評価を振り返り、指導方法や評価規準の見直しにつなげることが大事である。また、運動が苦手な子に対して、いかに興味や充実感を持たせるかが必要で、運動嫌いをなくすために、課題は適切か、つまずきはないかをみることも大切であると、説明があった。

その後、竹刀・剣道具の安全について、百鬼研究者が講義を行い、剣道の部活動や稽古中に発生した重大事故の事例紹介があった。授業では重大事故は発生していないが、管理が不十分であると、突発性の事故が起こる可能性がある。教員が徹底した竹刀・剣道具、場所の管理を行い、生徒にも竹刀にささくれないか、中結や弦が緩んでいないか、などのチェックを習慣化させた指導が大切である。また、剣道防具のにおいに抵抗を感じる生徒が少なくないため、あご当てや手袋を用意したり、風通しの良い場所に面と小手だけでも置いて乾燥させたりする工夫が、剣道嫌いをなくすことにつながる。最後に剣道用具の安全性に関する全日本剣道連盟の取組について説明した。

その後、再来年度以降の全国研修会の実施について協議された。閉講式では網代忠宏研究者が講評を、松尾貴之日本武道館振興課長が主催者挨拶をそれぞれ述べて、全日程を終了した。

